

西諸県地域の普及活動

令和7年5月
西諸県農林振興局
(西諸県農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) 西諸県農業改良普及事業推進協議会の幹事会を開催

7日に、普及センターで各市町、関係団体等が出席し、総会に向け、昨年度の実績と今年度の計画案等について検討を行いました。

普及センターからは令和6年度普及指導活動実績及び令和7年度の計画について、併せて振興局からは第八次長期計画後期計画について説明を行い、普及指導活動の円滑な推進にむけて関係機関・団体との連携を強化することを確認しました。



【実績や計画への質問をする出席者】

2) 宮崎県農業経営指導士委嘱式が開催（宮崎市）

26日に、県庁講堂で令和7年度から3年間の任期で79名が委嘱され、各地域の代表者が河野知事から委嘱状を受け取りました。知事からは就任への感謝と地域農業の持続的な発展を支える重要な位置づけであることを伝えました。

西諸県地域では11名の方に就任いただいております、7月には地域総会を開催し、活動計画の検討や若手農業者との交流会を行う予定です。



【知事から委嘱状を受け取る指導士】

3) 5月期子牛郡品評会が開催

7日に、小林地域家畜市場において、市町子牛品評会を経た35頭が出品され、審査の結果、優等賞に7頭、壹等賞に13頭、貳等賞に15頭が選ばれました。

なお、優等賞首席は高原町の大濱一文さん出品の「ゆりひめ」号（桃白鵬－百合茂－安福久）、2席は小林市野尻町の竹山昭徳さん出品の「ながおか660」号（福晴茂－美徳国－勝平正）、3席は小林市の橋満光一さん出品の「やの171」号（桃白鵬－美徳国－勝平正）が受賞されました。受賞牛は、発育良好で、体の幅、深さ、伸びに秀でているとの講評でした。



【ゆりひめ号】

Ⅱ 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動

(持続可能な農業生産の実現に向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

1) 就農相談会を実施

14日に、えびの市で就農している新規就農者1名の青年等就農計画検討を行いました。今回の協議内容をもとに6月の計画認定を目指して計画作成を進める予定です。

また、28日に高原町で肉用牛繁殖経営で就農希望、30日は果樹等で就農を検討する方の相談会をそれぞれ行いました。肉用牛繁殖経営の方については、収支計画をはじめとする青年等就農計画の概要を確認し、今後、相談者が活用する支援策を決定した上で、6月の計画認定を目指して計画作成を進める予定です。

※就農相談対応(面談)等 3名

(内訳:えびの市:施設野菜1名 高原町:肉用牛繁殖1名、果樹:1名)

2) 令和7年度にしもろサップ交流会を開催

20日に、小林市内において、にしもろサップ会員15名(小林市SAP8名、えびの市SAP7名)と農業経営指導士や関係機関、普及センター職員など21名の参加で開催されました。

交流会では、それぞれの立場の垣根を越えた積極的な意見交換が行われ、今後のSAP活動や参加者の取組に活かされていくことが期待されます。



【SAP・地域関係機関等との交流会】

(未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現)

1) 水田営農省力化展示ほの設置

1日に、えびの市で、育苗、代かき及び移植作業を削減し労働時間を短縮する目的の「乾田直播」展示ほの設置作業として、飼料用米(ひなたみのり)を約8kg(2反分)播種しました。

収量安定に向け、雑草のコントロールや入水後の水管理などに注意して栽培を進めていきます。



【乾田直播の播種作業】

(にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

1) さといも中生種「大和39」の9月どり導入見込みを検討

26日に野尻町三ヶ山にて、さといもの展示ほの生育調査を行いました。「大和39」は、8月出し「石川早生」からリレー出荷する中性種として有望です。

今後は、試し掘りや9月時の収穫調査及び生産者の意見を踏まえて適応性を評価します。



【中性種さといも展示ほ】

2) えびの市畑地かんがい事業推進協議会総会が開催

22日、えびの市役所において「えびの市畑地かんがい事業推進協議会」総会が開催され、普及センターから令和6年度の畑かん営農に関する情報提供を行いました。

先月から開催された各市町等の畑かん関連協議会総会は全て終了し、令和7年度の活動が本格的に始まりました。

普及センターでは、引き続き関係機関と連携して、畑かんを活用した営農振興を進めてまいります。

(魅力的な子牛産地を支える実力ある肉用牛繁殖経営の確立)

1) セリ前講習会の実施

13～15日に、小林地域家畜市場において、子牛セリ市開始前に飼料作物の雑草対策(春夏作)の講習会を行いました。100名程度の参加があり、参加した農業者からは時期に応じた除草剤処理についての質問もあり、除草の大切さを再確認していました。

今後も継続して、基本的技術の紹介を行い、良質な自給飼料の増産を目指していきます。



【質問への対応】

(スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

1) 令和7年度産促成きゅうり出荷反省会への参加(JAこばやし)

22日に、作の振り返りを行い、次作に向けて管理の見直し等を行いました。昨年度から開催されており、普及センターからは今シーズンの気象状況や生産量トップの生産者の管理の紹介を行いました。生産者からは暖房やCO2の設定など具体的な事例に関する質問が出ました。

今作もまだ出荷が続いていますので、作終了まで関係機関と連携して支援を行っていきます。



【部会長あいさつを聞く参加者】

(魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

1) ぶどう・なし管理講習会 (小林市果樹農業振興推進対策協議会及びJA梨ぶどう生産部会の合同開催)

12日に、市内の園地にてぶどう・なし管理講習会が開催され、生産者・関係機関含め約35名が参加しました。普及センターからは、ぶどう・なしの当面の管理、昨年の試験結果、暑熱対策資材、今年のシャインマスカットの未開花発生状況について説明しました。暑熱対策資材やシャインマスカットの未開花については生産者から複数の質問があり、関心の高さが伺えました。

これからも、ぶどう・なしの大事な管理時期が続くため、個別巡回にて指導を行います。また、シャインマスカットの未開花発生状況については、引き続き調査していきます。



【暑熱対策資材の説明を聞く参加者】



【普及センターから管理等の説明】

(西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

1) 高原町花卉部会の定例会及び令和6年度定期総会が開催

22日に高原町後川内にて、農家6名と関係機関4名が参加し、会員のは場を巡回し、順調な生育状況を確認しました。普及センターからアザミウマ防除についてポイントを説明し、くん煙剤の利用など省力的な防除方法について質問が出ました。

定例会後の総会では、新たな役員体制や視察研修などの今年度の活動計画を決議しました。長引く価格低迷など、厳しい販売状況が続きますが、良品生産に努める部会員の皆さんをしっかりと支援して参ります。



【総会で議事を協議する参加者】

(20年後も生き残る西諸茶産地の育成)

1) 「西諸県地区茶業振興協議会」一番茶反省会が開催

29日、反省会が小林市内で開催され、会員9名と関係機関6名が出席しました。会では、一番茶の実績や今年度の協議会活動について協議されました。一番茶の実績では、数量はやや減少したものの、金額が前年を大きく上回り、良好な結果となりました。

2 プロジェクト(総合、専門)以外の普及活動

1) 西諸県地区女性農業者サポート協議会総会及び研修会開催

16日に、普及センターにおいて、協議会委員25名(委任状8名含む)の出席及び関係機関など14名が参集し、総会及び研修会を開催しました。

総会では全ての議案が全会一致で承認され、新役員からは今年度の活動への意気込みなどの挨拶がありました。

総会後には、川南町のピーマン農家の佐師香恋氏を講師に「ライフステージ毎に必要な資産の作り方、守り方」と題して資産形成のための基礎、ライフステージ毎に必要な資産の取り扱い方について学びました。資産形成に関する基本的な情報を知ること、資産を守ることに繋がるとのこと、参加した会員からも質問があがり、高い関心が寄せられました。



【新役員からの一言あいさつと資産運用の研修会】

2) 焼酎用二条大麦現地検討会の開催

19日に、生産者3戸と実需者、関係機関が参集し、令和7年産の生育状況等と今後の作付け計画等について意見交換を行いました。その中では、早生品種の試作を検討したい等の意見が出されました。

今後は適期収穫を行うことによる、良質な二条大麦の生産が期待されます。



【二条大麦現地検討会】

3) 西諸県地区営農振興協議会野菜部会総会・技術員会の開催

9日に、JAこばやし地区本部本所にて標記総会および技術員会が開催されました。総会では令和6年度事業実績及び収支決算、令和7年度事業計画及び収支予算がすべて可決されました。総会後の技術員会では、管内の生育状況や今年度の事業及び取組について情報共有と意見交換が行われました。

今年度も展示ほの設置や県外視察など様々な取組を行うこととしております。管内の野菜の生産振興に向けて、関係機関一丸となって取組を進めていきます。

4) 岩瀬園芸組合定期総会への参加

12日に、高原町内にて標記総会が開催され、西諸県農林振興局と普及センターから2名が参加しました。岩瀬園芸組合は60年以上の歴史があり、ピーマンやメロン、トマトなど様々な品目の栽培を行う生産者で構成されています。高齢化に伴い組合員も減少していますが、地域の農業を守りたいという組合員の熱い思いに負けないよう関係機関一丸となって支援を行っていきます。



【会長あいさつを聞く参加者】

5) いちご若手生産者の支援 (JA えびの市)

14日に、えびの市いちご団地にて、いちご若手生産者、営農指導員、普及センターで、月毎の作業スケジュールや実績、栽培状況の確認を行いました。この検討会は昨年8月から毎月1回程度開催し今回が8回目となります。生産者からは、作業の進捗や栽培管理を見直す良いきっかけになっているとの意見がありました。

引き続き、関係機関と連携した支援を行っていきます。



【予定通り完成したハウス】

※この報告書では、JAみやざきこばやし地区本部を「JAこばやし地区」、
JAみやざきえびの市地区本部を「JAえびの市地区」と表記しています。
生産部会名は名称のため、地区の表示がないことがあります。

